

Ⅱ 網 漁 業

本県の網漁業は、歴史的には追込網漁業に代表されるが、最近では漁業形態が多様化していることもあって網漁業の種類は増えている。網漁業の種類は定置網、敷網、旋網、刺網等があり、操業方法からみて落とし網、ます網、建干網、追込網、数そう張網（3～4そう張網）浮敷網、トビウオ浮敷網、小型旋網、底刺網（一枚網、三枚網）、トビウオ流し刺網（一枚網）等に分けられる。

底刺網は漁網が入手、操業しやすいことから津々浦々に使用され、沖縄島、石垣島で多く行われている。定置網類は殆んどが沖縄島沿岸に集中して敷設されている。追込網はタカサゴやブダイその他の雑多な魚等、その対象とする漁法で分けると、タカサゴ追込網は宮古の伊良部島と石垣島が盛んであり、その他の追込網（通称パンタカー、チナカケー）は方々に見られ、季節的に操業が行われている、数そう張網は、カツオ竿釣で用いる活餌取り用で、本部漁協所属船が操業している。浮敷網は伊良部町漁協所属船によって1～2ヶ統操業されている。トビウオ浮敷網は、伊江、糸満、八重山の3漁協が盛んである。小型旋網は、平良、八重山漁協にそれぞれ1ヶ統操業している。トビウオ流し刺網は、港川漁協が盛んである。

1 定置網漁業

落とし網、ます網（浮子張り、立杭張りがある）建干網があり、昭和44年までは在来の建干網が地先の網漁業として盛んであった。昭和45年に羽地内海、与根地先（豊見城村）を中心にます網が相当数導入着業、さらに昭和47年に改良ます網が本土から導入着業

（昭和46年11月3日水産試験場で試験網操業）され、定置網は地先沿岸の網漁業として定着するようになった。昭和59年末現在大型（定置漁業権を取得し、身網の設置水深が15m以深のもの）15経営体、小型（共同漁業権内で敷設し、ます網、建干網等）158経営体計173経営体が操業している。定置網の大型（敷設水深15m～35m）はいわゆる落とし網で国頭村、読谷村、知念村が多く、盛んである。小型は名護市、与那城村、具志川市、豊見城村、知念村、石垣市に多く、名護市（羽地内海）、豊見城村、石垣市の網は、杭張りのます網が殆んどで、その他は浮子張りのます網である。在来の建干網は一部を除いて殆んどます網型化され、袋網に輪網を使っている。

(1) 建干網 (通称あんぶし) …………… 南原漁業協同組合

県内では、ます網、落とし網が操業される以前、地先の網漁業として盛んに操業されていた。定置漁具としては規模は小さく、漁具移動が容易であるため、一部では毎日設置場所を変えて操業している者もいる。最も盛んなのは糸満と南原漁協である。また、最近、袋網に輪網を取り付け、ます網型化しているのが多くなった。ここで紹介する建干網は勝連町南風原の南原漁協に所属する漁業者が使っているもので、水深約4m、底質が砂泥又は砂礫地帯で、主にエグァー(あいご)、アシチン(どろくい)、タチ(たちうお)、イカ類(あおりいか、こぶしめ等)を漁獲している。

A 漁具の構成

(イ) 設置見取図(図1-1)

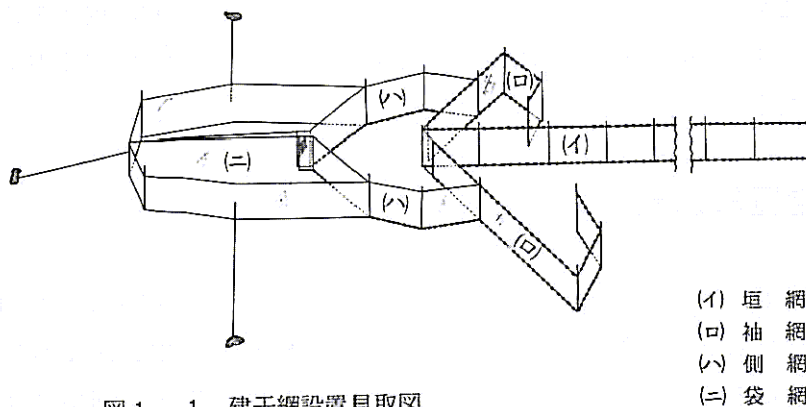


図1-1 建干網設置見取図

(ロ) 一般配置図(図1-2)

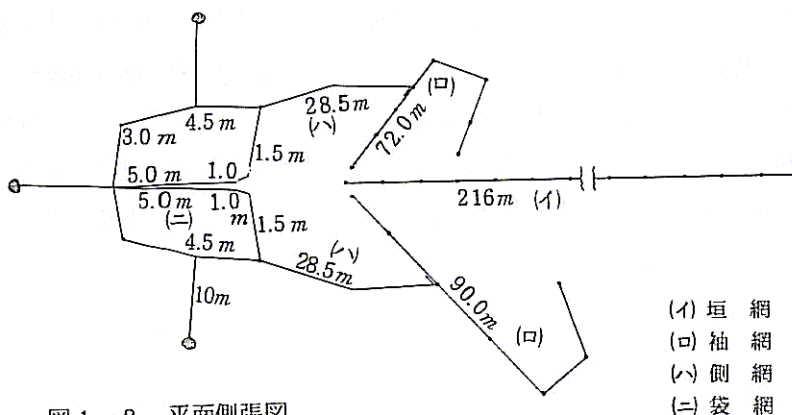


図1-2 平面側張図

(イ) 網地展開図 (図1-3)

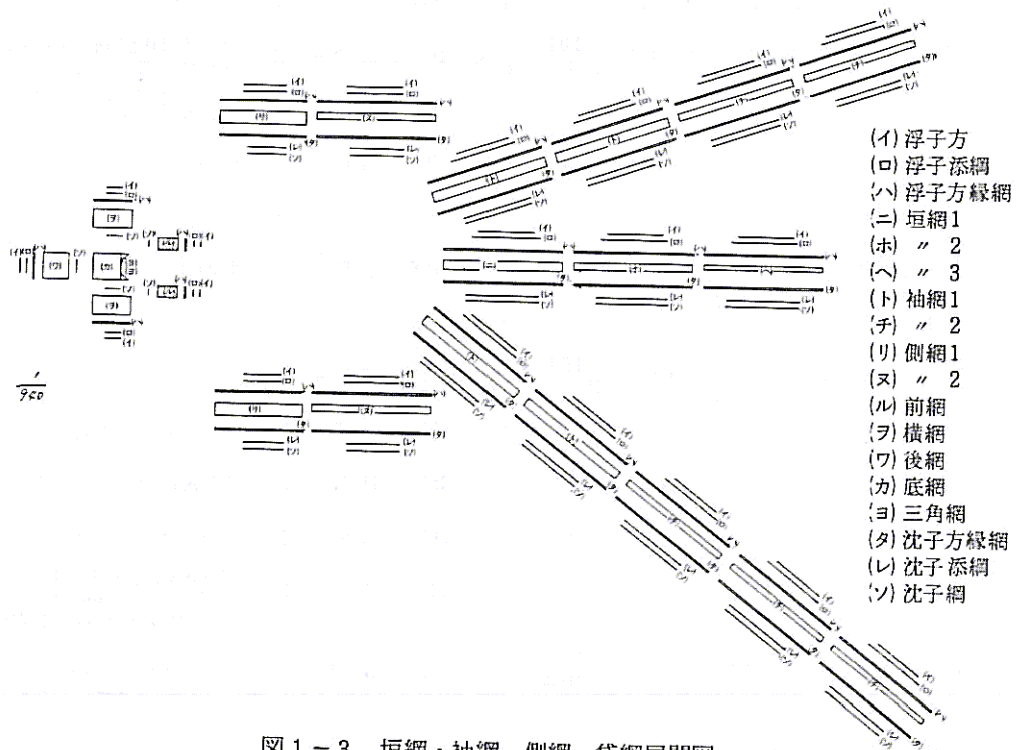


図1-3 垣網・袖網、側網、袋網展開図

(二) 漁具の仕様

a 網地 (表1-1)

表1-1 網地の仕様

項目	名称	俗称	材質	太さ	目合	掛目	長さ	反数	備考
垣網の部	垣網 1	みちあみ	ナイロン	210D 15本	7節	60目	37.50m	4反	浮子方18.00m、沈子方22.50mに仕立てあげる。4枚1組構成
	" 2	"	"	"	"	50	"	"	"
	" 3	"	"	"	"	40	"	"	"
袖網の部	浮子方縁網	みみがき	クレモナ	250D 30本	"	0.5	"	12	" 垣網1~3
	沈子方縁網	みみがき	"	"	"	2	"	"	"
	袖網 1	みまた	ナイロン	210D 15本	7節	60目	37.50m	4反	浮子方18.00m、沈子方22.50mに仕立てあげる。
	" 2	"	"	"	"	50	"	5	浮子方18.00m、沈子方24.50mに仕立てあげる。袋網に向って左側3反右側2反
袖網の部	浮子方縁網	みみがき	クレモナ	250D 30本	"	0.5	"	9	
	沈子方縁網	みみがき	"	"	"	2	"	"	

表 1-1 つづき

項目	名称	俗称	材質	太さ	目合	掛目	長さ	反数	備 考
側網の部	側 網	いりまーさー	ナイロン	210D 12本	8 節	100目	27.00m	2反	浮子方 10.50m、沈子方 13.50mに仕立てあげる
	"	"	"	"	"	60	37.50	"	浮子方 18.00m、沈子方 22.50mに仕立てあげる
	浮子方縁網	みみがき	クレモナ	250D 30本	8	0.5	27.00	"	側網 1
	沈子方縁網	"	"	"	"	2	"	"	"
	浮子方縁網	"	"	"	7	0.5	37.50	"	側網 2
	沈子方縁網	"	"	"	"	2	"	"	"
袋網の部	底 網	すくあみ	ナイロン	210D 15本	9 節	200目	7.58m	1反	
	三角 網	さんかく	"	"	"	70	2.65	2	一角より切りおとす
	側 網	わ き	"	"	"	150	11.37	2	4.5 mに仕立てあげる
	"	まふくる	"	"	"	200	7.58	1	3 mに仕立てあげる
	"	くちぐわー	"	"	"	140	3.79	2	100掛 3.79mの網地を 2.65m (70目) だけ 1.5 mに仕立てあげ、残り30目は縮結は入れない
	浮子方縁網	みみがき	"	210D 30本	"	0.5	37.90	1	横網、前網、後網

b 網 類 (表 1-2)

表 1-2 網類の仕様

項目	名称	俗称	材質	太 さ	長 さ	数 量	備 考
垣網の部	浮子 網	あ ば い	クレモナ	4.7mm	18.00m	12	垣網 1~3
	浮子添網	みじあばい	"	45本	20.16	"	"
	沈子 網	あしあばい	"	4.7mm	22.50	"	"
	沈子添網	みじあばい	"	45本	"	"	"
袖網の部	浮子 網	あ ば い	クレモナ	4.7mm	18.00m	9	袋網に向って左側 5、右側 4
	浮子添網	みじあばい	"	45本	20.16	9	"
	沈子 網	あしあばい	"	4.7mm	22.50 24.50	4 5	袖網 1 (両側に各 2) 袖網 2 (左側 3、右側 2)
	沈子添網	みじあばい	"	45本	"	"	"
側網の部	浮子 網	あ ば い	クレモナ	4.9mm	10.50m 18.00	2 2	側網 1 " 2
	浮子添網	みじあばい	"	"	10.50 20.16	"	"
	沈子 網	あしあばい	"	"	13.50 22.50	"	"
	沈子添網	みじあばい	"	45本	"	"	"

表 1-2 つづき

項目	名称	俗称	材質	太さ	長さ	数量	備考
袋網の部	浮子網	あばい	クレモナ	4.9mm	4.50m	2	側網 後網 前網 袋網
					3.00	1	
					1.50	2	
					1.00	2	
	浮子そえ網	みじあばい	〃	〃	〃	〃	〃
沈子網	あしあばい	〃	〃	〃	〃	〃	
張網	くちぐわな	〃	〃	5.00	2	袋網口側から後網の浮子方へ2本張り杭は使用しない	
錨網	ひけー	ハイゼックス	12mm	10.00	3	袋網の両横と後側の3ヶ所	

c その他

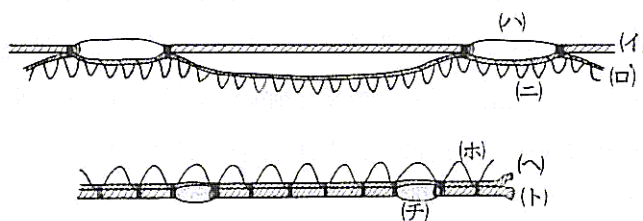
表 1-3 その他の仕様

名称	俗称	材質	規格	数量	備考
杭	ぼー	鉄	直径 3.8cm 長さ 5~6m	27本	
浮子	うき	合成樹脂	C-8~9	802個	袖網362 垣網440
沈子	おもり	鉛	10g	500個	袋網(前網) 20 側網 480
〃	〃	〃	〃	3,666	袖網 1,416 垣網 2,250
錨	ひけーいし	自然石	6Kg	3個	袋網用

B 漁具の仕立て

(イ) 網地

垣網と袖網は、図1-4に示すように浮子添網を縁網の全目にとおし、浮子間隔42cmとした浮子網と合わせ、クレモナ21本糸で浮子の両端を結止する。このとき浮子添網をつなぎ合わせるため4cmほど長くする。沈子添網も同じように4cmほど長くする。



- (イ) 浮子網
- (ロ) 浮子添網
- イ) 浮子
- (二) 浮子方縁網
- ホ) 沈子方縁網
- ハ) 沈子添網
- (ト) 沈子網
- チ) 沈子

図 1-4 垣網、袖網の浮子方・沈子方構成

沈子方は、沈子添網を縁網に通し、10φ沈子を通した沈子綱をそえ、沈子の取り付け間隔を15cmにしてクレモナ21本糸で一本に仕立てる。運動場にあたる側網も同じ方法で仕立てるが、袖網との接続部分を約2.5m折り込み、太さ3mmのクレモナ縄で袖網と適宜かけ合わせる。袋網の浮子方は、図1-5に示すように浮子添網を縁網に通し、クレモナ24本糸で一本に仕立てる。浮子は使用しない。

沈子方は、底網に横網、後網をクレモナ24本糸でかけ合わせ、図1-5に示すようにクレモナ24本糸で沈子綱を結止する。

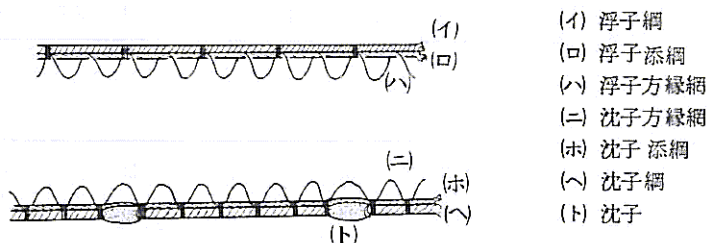


図1-5 袋網の浮子方・沈子方構成

袋前網と底網とのかけ合わせは、底網にある三角網に前網沈子方70目をかけ合わせ、残り30目を袋網の中に折り込んで魚の入り口とし、浮子綱から後網浮子方へクレモナ3mm綱で張綱をとる。

(ロ) 網 類

網類は、袋網に太さ1.2mmハイゼックス 縄 10mものを3本錨綱として使用する。

C 網張り法

まず袋網部の杭を4本立て、網持ちのとき沈子方の上がり下がり容易にするため沈子方の四すみに“つぼ”をつかって杭に通す。浮子方もそれぞれ杭に網張りする。次に側網、袖網の杭を立て、網を張りながら側網、袖網の順に結止する。袖網は落潮流の潮上を長め（長いほどよいが普通90m）に設置する。さらに、垣網の杭を一直線になるように立て、網張りする。垣網と袖網の交叉する部分の間隔はそれぞれ約90cmにする。最後に袋網の三辺にそれぞれ網地を束ねて錨綱の一端と結んで外側に張り、建込みを終える。

D 操業方法

サバニ（1.2トン、12馬力）に1～2人乗って早朝網持ちする。まず風上より袋網に船をのり入れ、袋口から網を揚げ、後網の一角に魚を寄せ、たも網ですくい、船内収納する。

E 漁場、漁期、漁獲物

漁場は、南風原地先の砂泥又は砂礫地帯で、潮流は殆んど海岸線に沿って平行に流れる。周年操業で、盛漁期は3～5月である。漁獲物は、エグアア（あいご）アシチン（どろくい）、タチ（たちうお）、イカ類、チン（くろだい）、ヒラアジ類、カマサー（たいわんかます）、キス（きす）、クロサギ等である。

(2) ます網 羽地漁業協同組合

県内で現在着業しているます網は、建込みに杭を用いるものと浮子を用いるものがあり、前者は箱網を有しない。後者は箱網があるのとないのがあり、箱網を有するものを通称改良ます網と称している。杭を用いるます網は、沖縄北部の羽地内海、豊見城村与根地先に多く敷設され、浮子を用いるます網は金武湾南側沿岸域と中城湾内に多く敷設されている。全県で約145張（沖縄島中北部90、南部40、宮古、八重山15）である。ここで紹介するます網は、名護市仲尾次地先の水深6m、底質が砂または泥の海域で、建込みに杭を用いているものである。

A 漁具の構成

(イ) 設置見取図

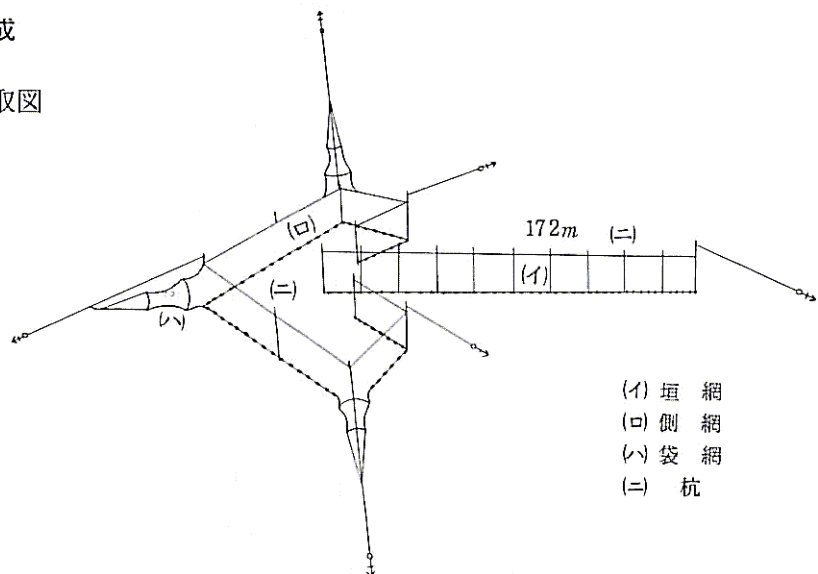


図1-1 ます網、設置見取図

(口) 一般配置図

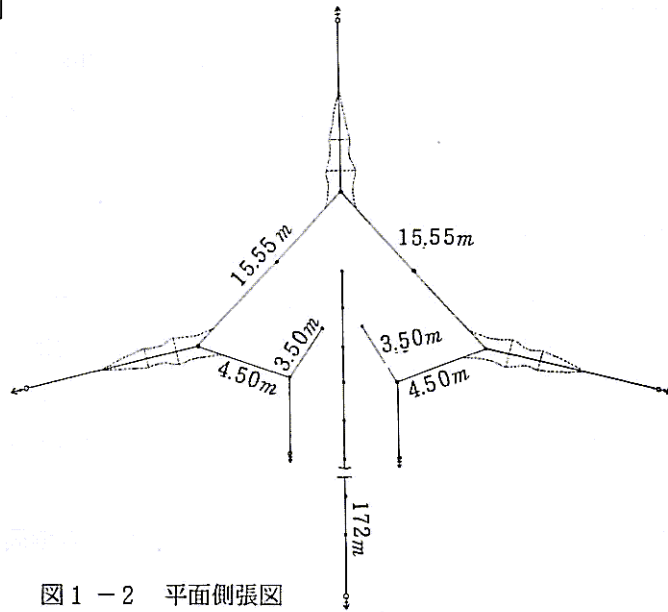
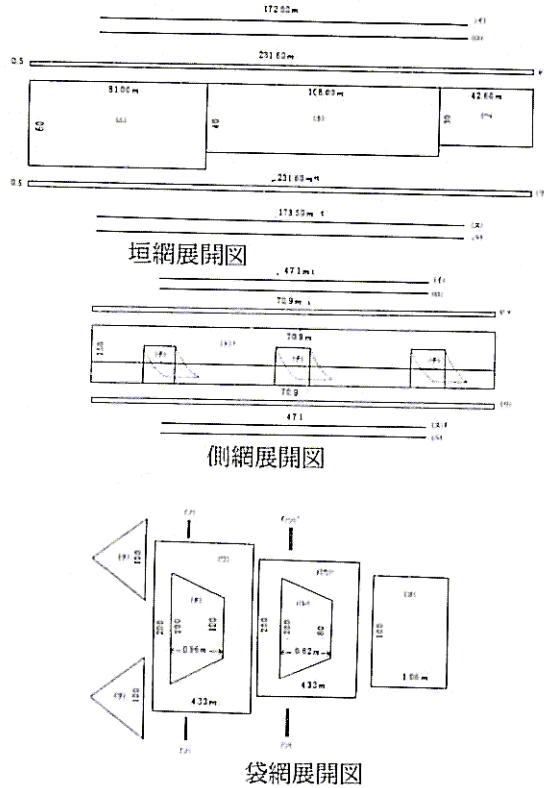


図1-2 平面側張図

(ハ) 網地展開図



- (イ) 浮子網
- (ロ) 浮子添網
- (ハ) 浮子方縁網
- (ニ) 垣網 (1)
- (ホ) " (2)
- (ヘ) " (3)
- (ト) 側網
- (チ) 袋口
- (リ) 沈子方縁網
- (ヌ) 沈子添網
- (ル) 沈子網
- (ヲ) 袋口三角網
- (ワ) 袋網 (1)
- (カ) " (2)
- (ヨ) 魚どり
- (夕) 罾斗網 (1)
- (レ) " (2)
- (ソ) 袋枠 (1)
- (ツ) " (2)

図1-3 垣網・側網・袋網展開図

(二) 漁具の仕様

a 網地 (表 1-1)

表 1-1 網地の仕様

項目	名称	俗称	材質	太さ	目合	掛目	長さ	反数	備 考
垣網の部	垣網 1	かちあみ	ナイロン	210 D 18本	4 節	60目	81.0 m	1	仕立て上りの長さ 60m タール染
	” 2	”	”	”	”	40	108.0	1	”
	” 3	”	”	”	”	30	42.6	1	”
	浮子方縁網	あばい	”	” 24本	4 節	0.5	231.6	1	垣網全長に半目 すきたし
	沈子方 ”	あしあばい	”	”	”	”	”	1	”
側網の部	側 網	かこい	ナイロン	” 18本	7 節	150目	70.9 m	1	仕立て上りの長さ 47.1m
	浮子方縁網	あばい	”	” 24	7	0.5	70.9	1	側網全長半目 すきたし
	沈子方 ”	あしあばい	”	”	”	”	”	1	”
袋網の部	袋口三角網	さんかく	ナイロン	18本	7 節	100目		2	網地の一角より一 脚切り
	袋網 1	ふくる	”	”	8	200	4.33 m	1	”
	” 2	”	”	”	9	”	”	1	”
	魚どり	ちびぶくる	”	24	11	100	1.06	1	”
	漏斗網 1	あぎ	”	9	12	200	0.96	1	漏斗先 100目 に切りおとし 50cm四方にする
” 2	”	”	”	”	”	0.82	1	” 80目 30cm ”	

b 網類 (表 1-2)

表 1-2 網類の仕様

項目	名称	俗称	材質	太さ	長さ	数量	備 考
垣網の部	縁 網	むとな	ハイゼックス	7 mm	172 m	1本	344mの1本網を2つ折りに合わせて使用
	目通し糸	あばい	”	6 ”	172	1 ”	”
	沈子網	あしじな	”	7 ”	173.5	1 ”	347 mの1本網を2つ折りに合わせて使用
	目通し糸	あしあばい	”	6 ”	”	1 ”	”
	張網及び錨	あんかーじな	クレモナ	18 ”	40	1 ”	1本の網

表 1-2 つづき

項目	名称	俗称	材質	太さ	長さ	数量	備考
側の部の袋網	緑網	むとなー	ハイゼックス	7mm	47.1m	1本	
	目通し糸	あばい	〃	6〃	〃	1〃	
	沈子網	あしじな	〃	7〃	〃	1〃	
	目通し糸	あしあばい	〃	6〃	〃	1〃	
	袋張網	ぶっくじな	クレモナ	18〃	30	3〃	袋張網と錨網は1本網
	張網及び錨	あんかーじな	〃	18〃	20	5〃	1本網
袋網の部の	漏斗吊網	あぎじな	〃	90本	0.3m	12本	1袋網に4本使用
	袋口締網	ちびじな	〃	150〃	適宜	3〃	1袋網に1本使用

c その他(表1-3)

表 1-3 その他の仕様

名称	俗称	材質	規格	数量	備考
錨	あんかー	鉄筋	20Kg	1個	垣網用 径21mmの鉄筋を5本合せて溶接
〃	〃	〃	〃	5〃	側網用2 袋網用3 〃
杭	くい	鉄パイプ	径35mm 5.5~6m	11本	垣網用
〃	〃	〃	〃	9〃	側網用
沈子	うぶし	鉛	120g	348個	垣網用
〃	〃	〃	〃	104〃	側網用
袋枠	ごーる	塩ビパイプ	径30mm 3.45m	1本	枠径 1.1m 1袋分
〃	〃	〃	〃 2.51m	1〃	〃 0.8m 〃
おもり	うぶし	自然石	3~4Kg	1〃	〃

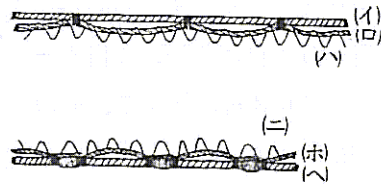
B 漁具の仕立て

(イ) 網地

垣網は、図1-4に示すように目通し糸を緑網目に通し、緑網をそえてナイロン18本糸で一本に仕立てる。沈子方もこの方法で行い、沈子間隔を50cmにし、出来あがりをつ子方172m沈子方173.5mに仕立てあげ、沖側3mを運動場に入れる。

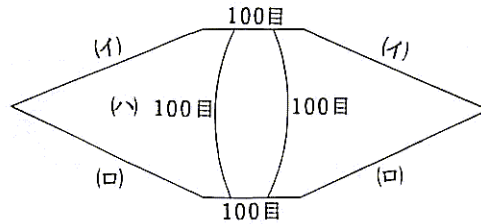
側網も垣網と同じ方法で仕立てる。

袋口網は、図1-5に示すように浮子方下方50目から一直線に切りくだす。一方は100目をおいて同じ方法で切りくだし、この部分を袋網を取り付ける時の天井網とする。両方に三角網(100目四方の網地を両角から1



- (イ) 縁網
- (ロ) 目通し糸
- (イ) 浮子方縁網
- (ニ) 沈子方縁網
- (ホ) 目通し糸
- (ハ) 沈子網

図1-4 浮子方・沈子方構成図

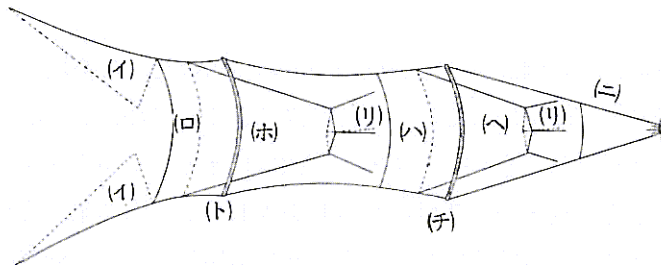


- (イ) 側網(上網)
- (ロ) " (下網)
- (ハ) 袋口三角網

図1-5 袋口三角網の入れ方

脚切断したもの) をナイロン18本糸を二重にしてぬい合わす。

袋網は、図1-6に示すように100目掛ナイロン18本8節の網地を200目切りにして袋網1とし、袋口網とかけ合わせ、一方を袋網2にかけ合わせ、魚取り35目掛24本11節ともかけ合わせる。



- (イ) 袋口三角網
- (ロ) 袋網1
- (ハ) " 2
- (ニ) 魚どり
- (ホ) 漏斗網1
- (ヘ) " 2
- (ト) 袋枠1
- (チ) " 2
- (リ) 漏斗つり網

図1-6 袋網構成図

漏斗網1は、200目掛12本9節の網地を先端100目に切りおとし、袋口8目のところとかけ合わせ、一方は漏斗つり網で0.5m四角にし、袋網2に吊す。漏斗網2は、200目掛12本9節の網地を先端80目に切りおとし、袋網2枚目より30目のところとかけ合わせ、0.3m四角にして魚取りに張る。

袋枠 1 は、塩化ビニールパイプを直径 1.1 m に仕立て、そのまわりに 40 目の目づりをとり、目づり 1 目に袋網の 5 目をナイロン 18 本糸を 2 重にしてかけ合す。袋枠 2 は、直径 0.8 m に仕立て、そのまわりに 20 目の目づりをとり、目づり 1 目に袋網の 10 目をナイロン 18 本糸を 2 重にしてかけ合わせる。

(ロ) 網 類

張網は、図 1-7 に示すように垣網先端に 1 本、側網に 2 本、張網（錨網） 3 本を使用しているだけで杭を数多く使用して網張りをしている。

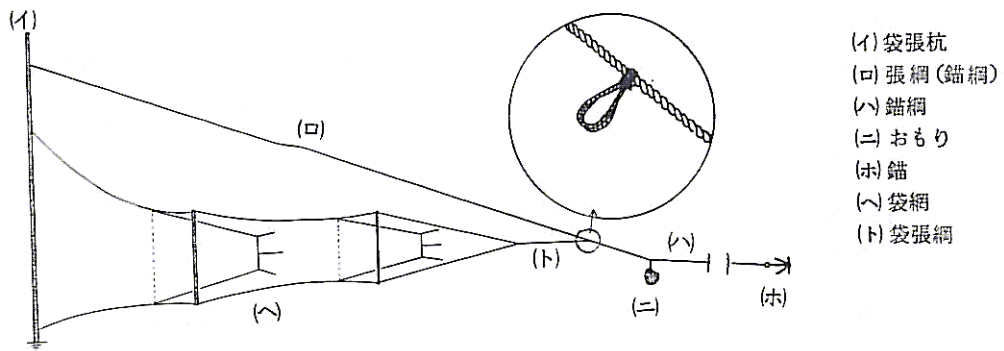


図 1-7 袋網側の杭・張網構成

C 網張り法

建込みは、満潮時に行う。側網、垣網、杭の順に船に積み込んで漁場へ行き、まず垣網は沖側から陸側へ一直線になるように杭を立て、これに沖側から次第に網張りをを行い、最後に張網をとり、錨を投下する。側網は杭を立てながら網を入れていくが、あらかじめ浮子方に杭との結び目にするしを入れておくと作業が容易である。

最後に張網、袋張網に 21mm の鉄筋棒 5 本を合わせて溶接作成した 20Kg 錨をそえてしっかり張ってから投下し、張込みを終る。普通 15~20 日で網の入れ替えを行う。

D 操業方法

1 人乗りの漁船（2 トン、船外機 28 馬力）で早朝網持ちをする。まず袋枠 1 を手かぎで引きあげ、網を上下に振りながら魚を魚取りに追い込み、袋枠 2 と魚取りを船上に揚げ、張網に結んだ魚取りの締網をほどいて漁獲物を収納する。

E 漁場、漁期、漁獲物

漁場は、沖縄島北部名護市仲尾次の地先で水深 6 m 内外、底質は砂または泥で、潮流のゆるやかな海域である。漁期は周年で網の入れ替え時と台風時だけ休業する。漁獲物はチン（くろだい）、アシチン（どろくい）、エグァー（あいご）、キス（きす）、イカ類（あおりいかが殆んど）、ヒラアジ類、タチ（たちうお）等である。

(3) 改良ます網 具志川市漁業組合

改良ます網は、ます網が杭を立てて網張りするのに対し、フロートを使う。網の下縁には沈子（鉛）をつけ、浮子方と沈子方からロープをとりアンカー（砂袋）を入れて網成りをよくしている。網の構成は垣網、運動場、箱網及び袋網（輪網）から成る。袋網は 3 ケ所ついており、いったん魚群を箱網に入れて適宜袋網に入った魚を漁獲する。箱網には床網（敷網）と天井網がつくが、ここで紹介する具志川市赤野の網には天井網はついていない、この網は水深 7 ~ 8 m で使用している網である。

A 漁 具

(1) 側 張 り

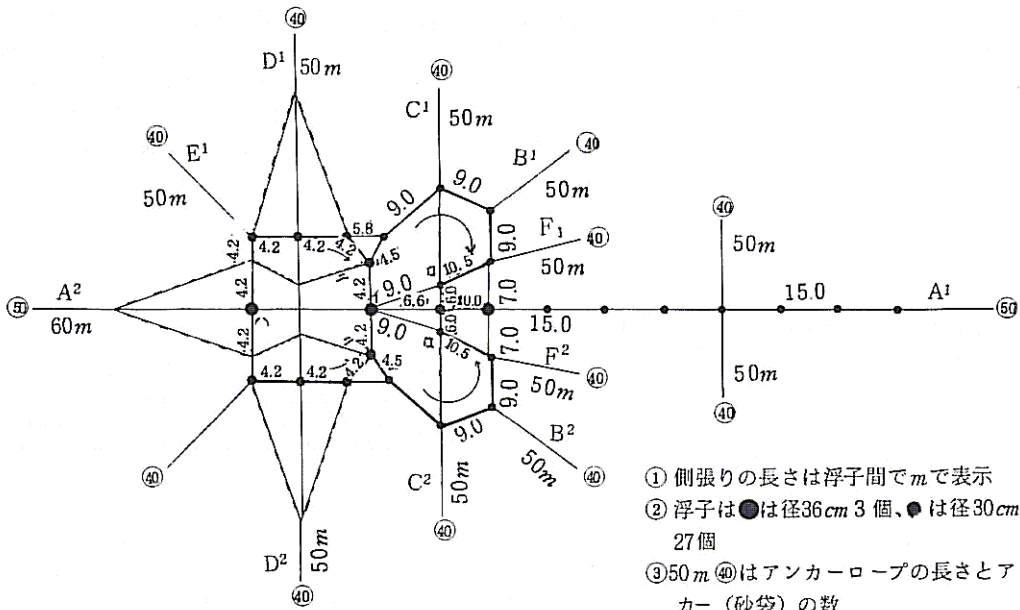
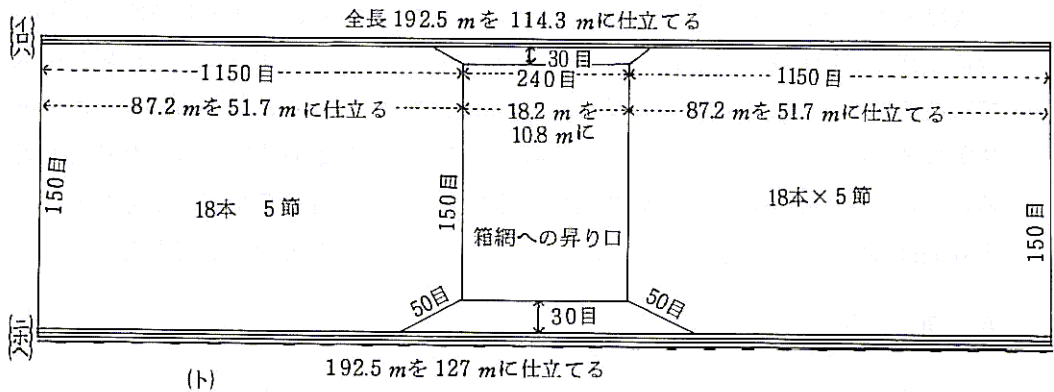


図 1-1 側張り図

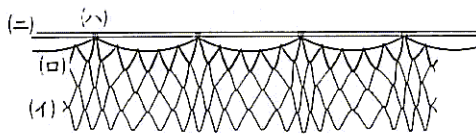
側張りの仕方は、図1-1に示すようにセンターロープ (A¹-A²) を両端にアンカー (砂袋) を投入して張る。本側は運動場と箱網が2つに分かれる。運動場の側張りロープ (太さポリエチレン21%) はイのところでは予め結止され、その両端はロで結着される。箱網の側張りロープの中心はハで結止され、両端はニで結着され、浮かしておく。各浮子及びアンカー (砂袋) 、ロープ等の取付けるところには黒色古網地を巻いてマークしてあり、次いでアンカーをB¹B² ~ F¹F²と順番に入れてロープ張りし全体を形成する。垣網のアンカーロープ (太さポリエチレン14%) は潮流風波が強くないこともあって中央両側に1本ずつ張る。

(ロ) 運動場



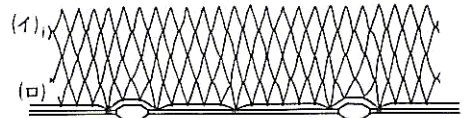
- | | | |
|--------------------------------|------------------|---------------------------------|
| 浮子方 | 昇り網 | 沈子方 |
| (イ) 浮子網 ポリエチレン 9 $\frac{m}{m}$ | セット用耳網上・下とも5目に1ヶ | (ニ) 縁網、半目、60本糸を添網に取付け |
| (ロ) 目通し糸 " 6 $\frac{m}{m}$ | あて48目 | (ホ) 目通し糸 ポリエチレン 6 $\frac{m}{m}$ |
| (ハ) 縁網 半目60本糸手すき | " 両横5目に1ヶあて | (ヘ) 沈子網 ポリエチレン 9 $\frac{m}{m}$ |
| | 38目 | (ト) 沈子 鉛 60匁 長4.2 cm |
| | 下30目は昇り網になる。 | 鉛間4.2.5 cm 網目12目入れる |

図2-1 運動場



- (イ) 縁網5目 (身網の目数に入る)
 (ロ) 荒目60本糸半目すき
 (ハ) 結止糸60本糸5目ごとに止める
 目通し糸は縁網より約1.5倍の長さ
 (ニ) 側張りロープへの取付け網 2.5 mに
 1個 ポリエチレン 6 $\frac{m}{m}$ 約1 m

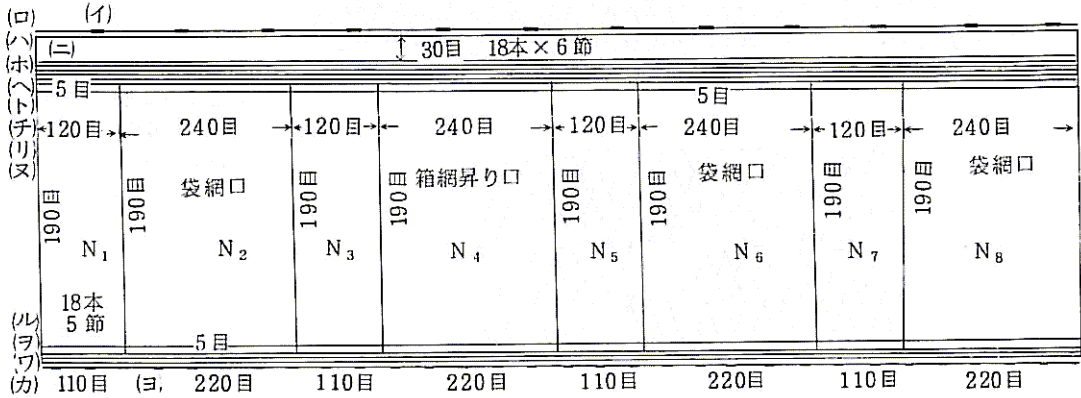
図2-2 浮子方の仕立て



- (イ) 縁網5目は身網の目数に入る
 (ロ) 荒目半目すき、目通し糸60本糸は
 沈子網より約1割長い

図2-3 沈子方の仕立て

(ハ) 箱 網



A 浮子方と返し網

- (イ) 浮子…硬質発泡スチレン 長15cm 径8cm
- (ロ) 浮子網…ポリエチレン 9 $\frac{7}{8}$
- (ハ) 目通し糸…ナイロンスパン 3 $\frac{7}{8}$
- (ニ) 返し網(天幕網)…18本 6節 30目
- (ホ) 荒目…半目手すき(36本糸)

C 沈子方

- (ル) 緑網…5目 30本18節
- (ヲ) 荒目…半目手すき(36本糸)
- (ワ) 目通し糸…ナイロンスパン 4 $\frac{7}{8}$
- (カ) 沈子網…ポリエチレン 12 $\frac{7}{8}$
- (コ) 沈子…鉛 60匁(4.2cm)

B 浮子方

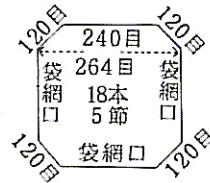
- (ヘ) 緑網…ポリエチレン 3 $\frac{7}{8}$
- (ト) 身網との取付け網…ポリエチレン 6 $\frac{7}{8}$
- (チ) 目通し糸…ナイロンスパン 4 $\frac{7}{8}$
- (リ) 荒目…半目手すき(36本糸)
- (ヌ) 緑網…5目30本18節

D その他

手すき、結止用糸…ナイロンスパン36本糸

図3-1 箱 網

箱網昇り口



床網と箱網の側網、沈子方の取付け方は側網5目より取付ける

図3-2 箱床(敷)網

床網が接合される

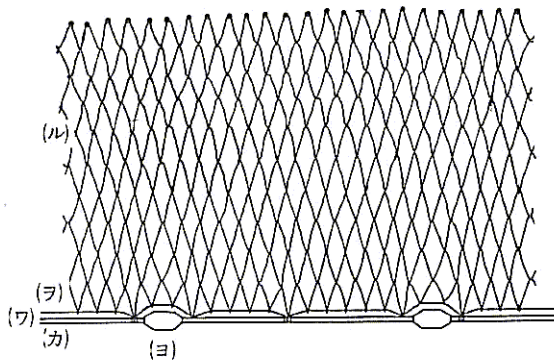
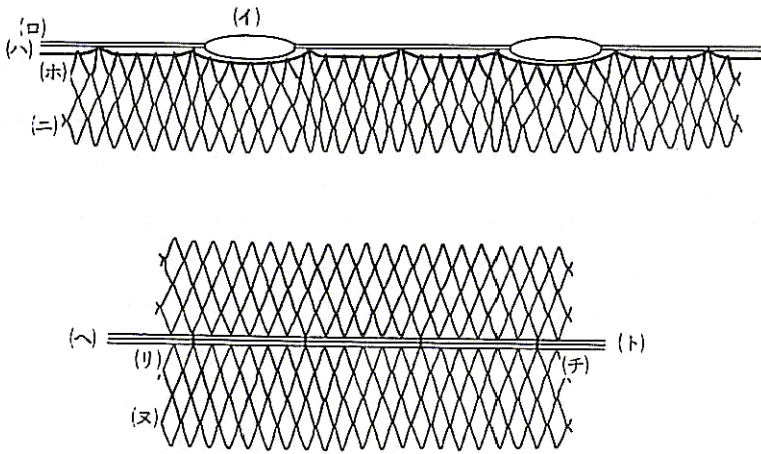


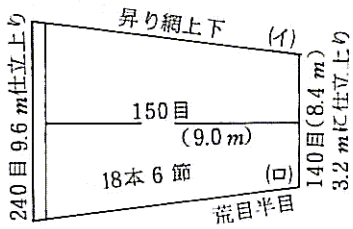
図3-3 沈子方(c)の仕立て方

- ① 沈子間 42 cm 12目
- ② 沈子下 2目
- ③ 緑網5目のところで床網が接合される



- ① 浮子間 40 cm
" 11 目
- ② 浮子下 5 目
- ③ 6 目ごと結止
- ④ 2.5 mごとにポリエチレン6% 長さ70 cmのつり網が(ト)の網にとりつける

図3-4 浮子方(A B)の仕立て方



- (イ)から6%ポリエチレン網で袋網口浮子方に結止張り
- (ロ)から6%ポリエチレン網で袋網口沈子方に結止張り

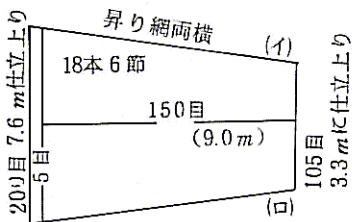


図3-5 箱網昇り

B 漁 法

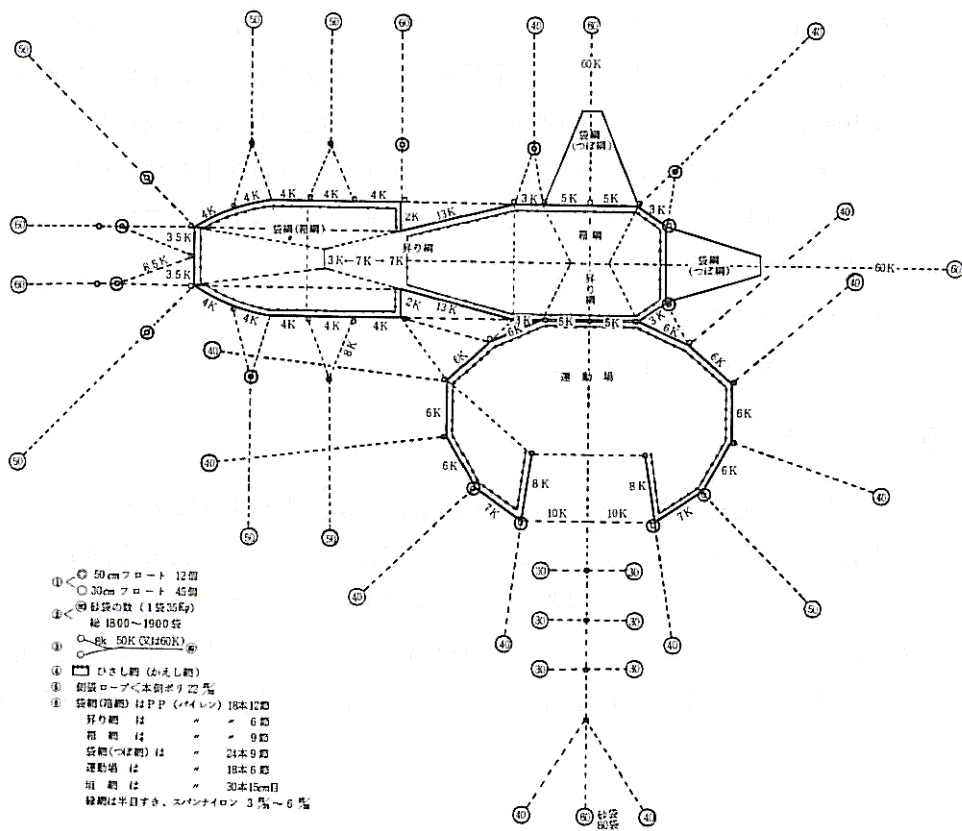
漁撈は普通夫婦で行う。袋網部のアンカーロープには滑車を取り付けられており、その滑車を通してロープで袋網が張られている。ロープの端は箱網の側張りロープに止められているので漁獲に際してはまずそのロープをはずす。最初のリングから揚げ縄が箱網よりのアンカーロープに止められているので、それをはずしリング(塩ビパイプ製で6個つく)を次第に引き揚げ、入った魚は魚取りに順次落とし、袋尻(魚取り)を開放して漁獲する。イワシ、ムロ等が約50Kg以上袋網に入らないで箱網にいる時は、左の袋網を残して残り2つの袋網を輪網ごと引きあげて側張りにくくり付け、箱網を右から左へ次第に引きあげ魚を追い込み、袋網のところで漁獲する、網は4統所有し3統敷設し1統は替網とする。使用漁船は1.5トンの船内外機付FRPボートである。側張りは設置したままにし、網部は汚れが早いこともあり15日～20日程度で網替えする。周年操業で敷設場所は金武湾内具志川市の赤野地先で漁獲物は白イカ(あおりいか)、エーグァー(あいご)、タチ(たちうお)、アマユ(くろさぎ類)、甲いか(こぶしめ)等で、白イカは4～6月、エーグァーは2月と5～7月、タチは4～5月、アマユは2月、甲いかは2～4月に多く獲れる。

(4) ます網型落とし網 …………… 宜野座漁業組合

宜野座村の定置網漁業は昭和58年頃からで現在大型1、小型1の2統が操業している。この型の網は、県内では普通みられるもので、ここに示す網は、宜野座村漢那地先に設置されている9～10K型の網である。

A 漁 具(側張図)

この網は従来の改良型ます網(ねずみ箱網)に袋網(箱網)を取り付け、回遊性魚類が入網漁獲できるようになっている。



まず網型落し網 (9~10K網)
(側張図)

(5) 落し網 与那原町漁業協同組合

与那原町漁協の定置網漁業は比較的新しく昭和53年に始まり現在は3統設置されている。2統は7~8K網、1統は13K網である。ここに示す網は昭和59年10月に設置した13K網で、漁協自営である。

A 漁具

(1) 漁具資材

本側 209 K、運動場端から箱網端までの長さは91 Kである。本側ロープ、センター錨網ポリエチレン24%、両端又網24%60K、錨網22%40K、錨用サンドバッグ 2,000 袋 (両端に60袋×8 = 480袋。その外各40袋使用) フロートは1尺2寸玉

55個、1尺玉20個を使用している。網地は、運動場テトロン3/30本3寸目、昇り網テトロン3/24本3寸目、箱網テトロン半分21本8節、半分（魚取り側）18本10節、魚取りテトロン24本12節を使っている。沈子方には網成りを良くするため鉛を配し、浮子方にはひさし網（かえし網）（箱網は魚取り側の11Kのみ）をとおりつけ、予防網（浮遊物止め、魚の逃げ、網の沈み等）にしている。

(ロ) 網の配置図

- (1) 側張及び側面図 (図1-1)
- (2) 展開図 (図1-2)

B 漁 法

敷設場所は通称与那原湾の外域で板良敷部落から東北東3Kmのところである。網起しは漁協職員3~4人漁業者2人計6人で行う。（漁協自営網と漁業者の網の2統を起す）。セリ休日、網掃除で引き揚げ中以外は、キャッチホーラー船尾側1台設備の定置ポート（2.5トン）で毎日出漁する。船を運動場側から入れ箱網の昇り口、A BにAは船首、Bは船尾にして横たえ、両滑車ロープをゆるめて、Bから

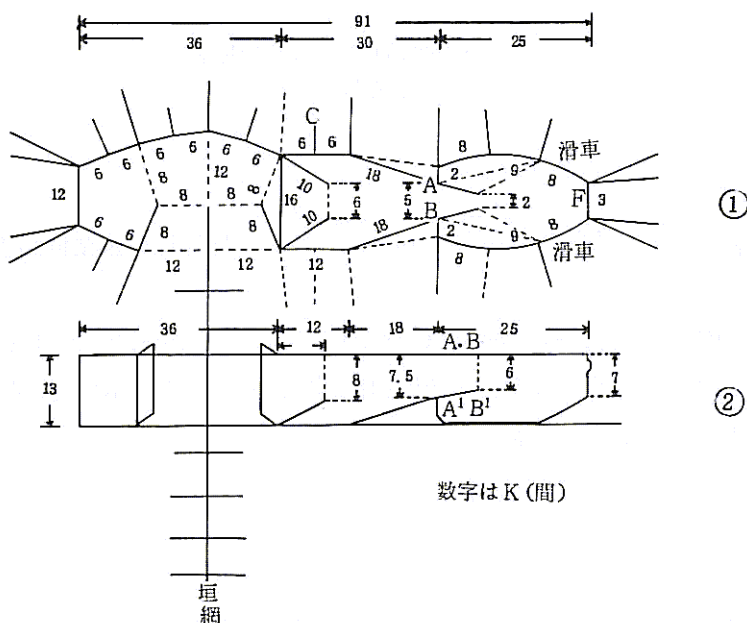


図1-1 側張 図①及び側面図②

図 1-2 箱網・内昇展開図

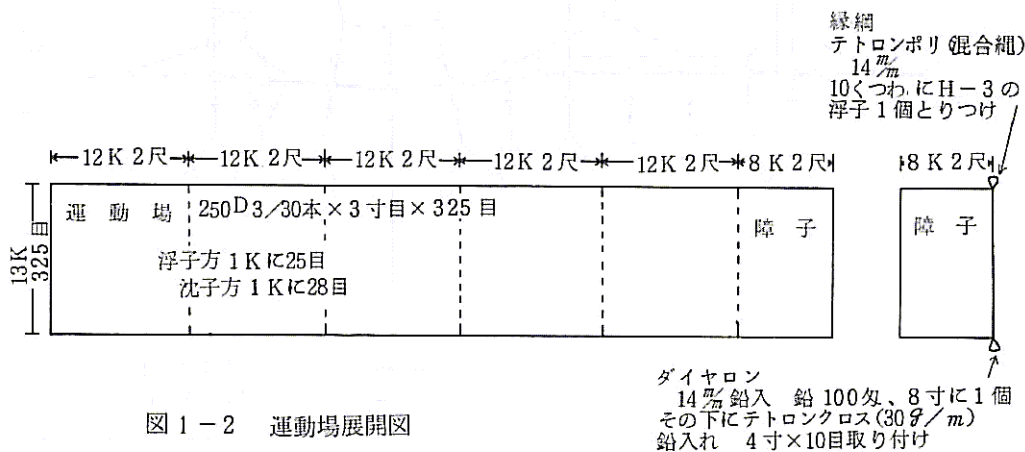
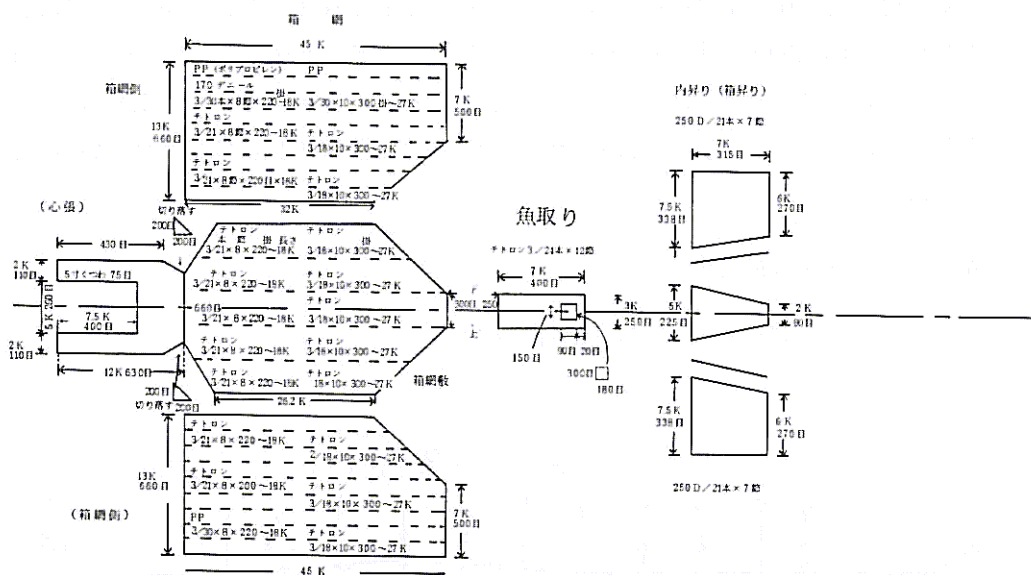


図 1-2 運動場展開図

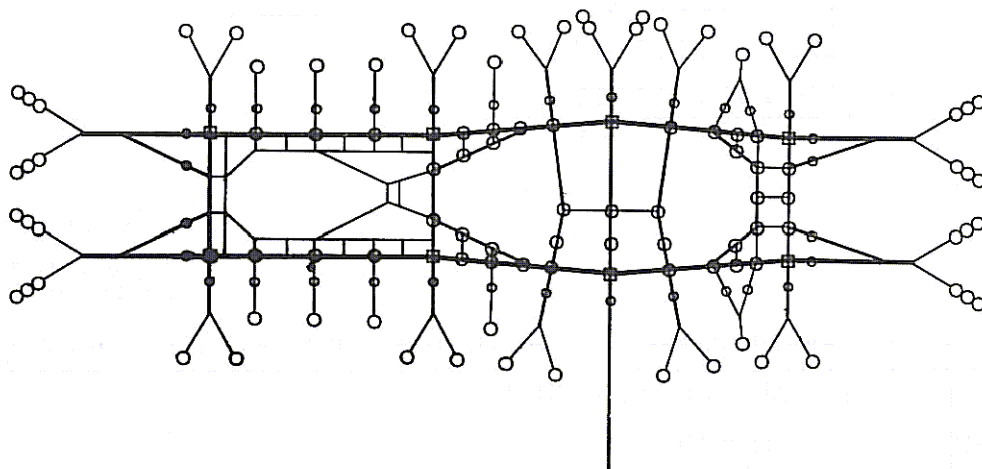
B' にとりつけた起しロープ (A、A' も同じ) をキャッチホーラーで引きあげ、(勿論昇り網もあがる) 箱網を右舷側に並んで、F の魚取りに向って次第に網をあげながら最初の網は落して行く。魚取り部 (F) で漁獲する。なおこの網にはCの部分につぼ網 (ラッパと称す) が取りつけられる状態にあるが、取りはずして入口は閉めてあり、もっぱら漁獲は箱網内で行う。漁獲物は、タチウオ主体にドロクイヒイラギ、グルクマ、アイゴ、アオリイカ、ヤリイカ等の内湾的魚種で、他の落し網と比較して漁獲量は少ない。

(6) 落とし網 知念村漁業協同組合

知念村の定置網漁業は県内では早くから操業され現在大型3、小型10計13統設置されている。昭和59年の定置網の漁獲量は118.0トンでタイワンカマス10%、メアジ8.5%、ムロアジ8.2%、アイゴ8.2%、タチウオ8.1%、グルクマ7.6%、その他となっている。ここに示す網は知念村知念岬沖に昭和54年から設置されている10K網である。

A 漁 具 (側面図)

この網は、テトロンラッセル網地を使っている。



- ① 外本張りロープ ——— ダンライン30% 129.5 K 2本
- ② 本張り " ——— " 24% 288.2 K
8 K 2本、9.5 K 2本、16K 2本、16.5 K 2本、17.1 K 2本、20K 3本、21K 1本、24K 2本、25K 1本
- ③ 側 張 り ——— ダンライン18%、2 K 2本、4 K 2本、5 K 3本
- ④ アンカーロープ 24%、10K 11本 33K 23本
18%、10K 4本、7.5 K 8本
- ⑤ アンカー(砂袋)量……3,870 袋
- ⑥ 網地はテトロンラッセルを使い、箱網は30本~50本、45%~60% 昇り網に60本 120%、運動場に60本~70本 150%、垣網に45本 120%の網目を使っている。